

平成17年8月30日

従業員各位

株式会社 徳 株式会社傳六  
株式会社傳七 有限会社和公  
代表取締役 鷺岡和徳

前略、まだまだ残暑が続いています。今月も業務に専心いただきありがとうございます。

今月は最近私を感じることを書かせていただきます。大相撲では15番勝負のうち8勝すれば勝ち越しとなり番付が上がります。しかし企業経営は初日から14連勝していても千秋楽に1敗すれば倒産する事もありえます。どのような会社でも創業等は規模が小さくとも10年、20年と続けるうちに、それなりに取引のスケールも大きくなり、社会に認知され、会社として大きくなるために、ひとつの失敗が大きなダメージになる事がままあります。情報化社会の進展で私を含め、経営者は以前にもまして、多くの情報に囲まれて事業を営んでいます。儲け話もいろいろと来るのでつい手を出したくなる事もあります。しかしいくら魅力的な話でも少しでも自信のない話、不安を感じる話は千秋楽の1敗の意味の重大さゆえに見送り、休む事が大切と私は考えます。14勝1敗よりも9勝6休で勝ち越すことが、優れた経営の行動様式といえます。野球でもストライクにすべて手を出すのではなく自分の好きな球が来るまでじっと待つ事が名打者といわれています。そのためには自分の好きな球、つまり自社の長所短所を知る事が重要です。又、個人的にも同じことが言えます。私は職業柄、美味しいものを食べる事が大好きです。いつも美味しいと思ったらつい食べ過ぎてしまい、あとで胃が痛くなったりして苦しみます。そんな時私は思いません。生きているといろんな甘いものに出会います。利や快や甘美なもの、そして順調という幸運に出会います。そこで深追いせず八分にする事を日常から心がけていると苦にからまれることはありません。この世のすべてのおいしいものの中には必ず苦いもの、悲しい事、トラブルが付いているという事を社長業を続ける中で感じる今日この頃です。

「私たちはお客様のために常に新しいことに挑戦し、食生活に新たな価値を創造しつづけます。」

すべては自分のために。

すべてはお客様のために。

すべては会社のために。

すべては社会のために。

来月も一緒に頑張りましょう。

草々